

【中2・総合・「かくれ歴史大国・榛東の魅力を伝えよう！」】①

育成を目指す資質・能力

榛東村の歴史的な魅力を調べ、発信する活動を通して、相手や目的に応じた調査方法を理解し、調べた内容を相手に伝わりやすいように整理したり、適切な構成でまとめたりして表現するとともに、ふるさとの魅力に関心を持ち、村の人々にその魅力を伝えようと探究活動にとりくむことができるようにする。

ICT活用のポイント

□イ□ノートを用いた情報の整理・分析

事例の概要

<課題の設定>

地域の歴史を体感する活動を通して、思いをもつ。
「社会的資源をもつ榛東村の魅力を発信しよう！」

<情報の収集>

榛東村の歴史や縄文時代の文化について情報収集しながら、発信の手段についても、どんな方法があるかを探る。

<整理・分析>

みんなで出し合った展示の内容や方法についてのアイデアを分類し、相手意識や目的意識を確認しながら整理し、決定する。

<まとめ・表現>

特別展示会の準備を行い、開催する。
→【振り返り】参加者へのアンケートを分析する。

▶ 耳飾り館の見学や耳飾り体験、清水貝戸遺跡の発掘調査見学などの体験活動を通して、榛東村に存在している歴史的資源や価値について身をもって体感する。生徒は、自らの想いを榛東村の魅力発信へとつなげていく。

▶ 村の歴史や縄文時代の文化について、文献調査を行うほか、耳飾り館の職員へのインタビューや実施調査を行う。
▶ 調査してきたことをもとにして、耳飾り館での特別展示会にどのようなものが展示できるか自分なりのアイデアを考える。
・縄文クイズ ・村の歴史をまとめた本 ・耳飾り体験コーナー ・自分たちで作った土器の展示

▶ 相手意識や目的意識を再確認した上で、多くのアイデアを分類・整理しながら、「自分たちならではの展示」といった視点で展示内容や方法を分析し、絞り込みを行う。
▶ 展示内容について、耳飾り館の職員に提案し、アドバイスをもらい、よりよいものになるよう改善していく。

▶ 特別展示会の日程に合わせて計画を立て、準備を行う。
▶ 特別展示会を開催し、参加者へのアンケート結果とともに自分たちの活動を振り返る。

【中2・総合・「かくれ歴史大国・榛東の魅力を伝えよう！」】②

【事例におけるICT活用の場面】「耳飾り館に何を展示するか話し合おう」(整理・分析)



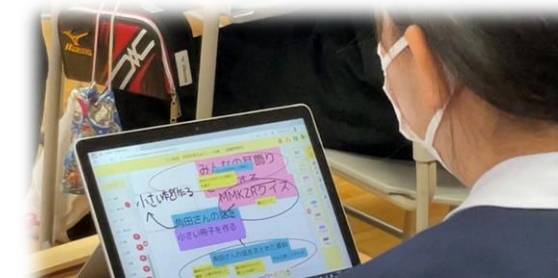
個人ページに作成しておいた付箋を、発表しながら班の協働ページに貼り付ける。付箋は発表者ごとに色分けされている。



班員の考えが全て出そろったら、意見を出し合い、付箋を動かしながらグルーピングし、どのような展示ができそうかアイデア进行分类していく。

ICTを効果的に活用し、全員の意見をもとにして、クラス全体で行う展示の内容や方法について整理・分析しながら話し合う活動となった。

具体化してきたアイデアを全体で共有し、話し合う中で、ただ自分たちがやってみようというだけでなく、「村の人たちに魅力をアピールする」といった相手意識や目的意識とともに、これまで学習してきた「自分たちだからこそできること」といった視点で展示内容を決めていくことになった。



全ての班の分析結果を互いに見合い、アドバイスを書込みあう。